

SOYOKAZE ZIKOBOU Vol.07

@NEWS 2020年11月号

事故が起きてしまった際の訓練も重要です。

これまで6回にわたり、重大事故を起こさないための「事前における」実践について紹介してきました。

今回は異なる視点で発信したく思います。それは、「事故が起きた際の対応」。万が一に事故が起きてしまった時、被害を最小限に抑えるために、落ち着いて適切な判断に基づく実施のためには何をすべきかについてです。

我々の仕事は対人援助職です。ヒューマンエラーはつきものです。どんなに日々、気を張ったり、努力をしたとしても、様々な要因が重なり、予期せぬ事故が起きてしまうことだってあるはずですよ。

- ・事故が起きてしまった時、落ち着いて対応できますか？
- ・救急車を呼ぶ際に、正確に情報を伝える事ができますか？
- ・事故に遭った利用者の呼吸が確認できなかった際、胸骨圧迫やAED実施等の救命処置はとれますか？

焦って頭が真っ白になって何もできなくなってしまうかもしれません。利用者の命を預かっている仕事ゆえに、有事の際に落ち着いて適切なフローに基づく対応がとれるよう、定期的に訓練することが大切です。今回は一例を紹介いたします。

※事例は入浴支援時となっておりますが、各事業所において事故が発生しやすい状況は様々です。その状況に当てはめながら、実施策を検討してもらえればと思っています。

救急車の呼び方

119番、火事ですか？ 救急ですか？

1 救急であることを伝える
119番通報したら、まず「救急です」と伝えてください。

救急です

住所はどこですか？

2 救急車に来てほしい住所を伝える
住所は、必ず市町村名から伝えてください。住所が分からない時は、近くの大きな建物、交差点など目印になるものを伝えてください。

〇〇市
〇丁目〇番地です

どうしましたか？

3 具合の悪い方の症状を伝える
最初に、誰が、どのようにして、どうなったと簡潔に伝えてください。また、分かる範囲で意識、呼吸の有無等を伝えてください。

父親が、胸の痛みを訴えて倒れました

おいくつの方ですか？

4 具合の悪い方の年齢を伝える
具合の悪い方の年齢を伝えてください。分からない時は、「60代」のように、おおよそかまいませんので伝えてください。

65歳です

あなたの名前と連絡先を教えてください

5 あなたのお名前と連絡先を伝える
あなたのお名前と119番通報後も連絡可能な電話番号を伝えてください。場所が不明な時などに、問い合わせることがあります。

私の名前は
〇X〇美です
電話番号は…

救急隊から聞かれること

119番通報をしたら、こんなことを聞かれます。

住所	横浜市港南区港南4-2-8 そよかぜの家
電話	045-847-0230
目印	港南消防署すぐ隣の障害者支援施設

- 誰が、どうしたのか
(病気、けが、交通事故等)
- (具合が悪い人の) 年齢、性別
- 一緒にいるか？
(頼まれて通報しているか?)
- 呼吸はしているか？
- 冷や汗をかいていないか？
- 顔色は悪くないか？
- 普通には話ができるか？
- 症状を詳しく

慌てず情報が伝えられるよう、表を作成し事業所内に掲示しておきましょう。

【実践例】入浴支援中における緊急対応



①入浴中、てんかん発作
(湯に顔が浸かる)



②大声+呼び出しプザーで
応援職員を要請



③浴槽の栓を抜きながら、マッ
トを使用し救出し、呼吸確保



④通報者・救急隊に分かれ
119番通報訓練



⑤応援者とともに入浴槽から
引き上げる



⑥救命訓練キット(スクーマ
ン)を使いながら心肺蘇生訓練



取組み 実践結果

てんかんのある利用者が湯船につかる際は、目を離さないことはもちろん、有事の際にすぐに対応できるよう、できるだけ近い距離にいるようにする。

栓を抜き、水を排出させるのに時間がかかる(約3分)、栓を抜くことと並行しながら利用者への救出を行う。

救出の際、支援員単独では、利用者を浴槽から床への移乗をすることが困難なことがわかった。無理に行うことで、二次被害が発生する可能性があることから、呼吸確保と安全な姿勢保持を最優先させる。床への移乗は応援が来た際に行うようにする。

どんな姿勢で入浴していたとしても、栓を抜きながら、水から顔をだし呼吸確保させることならできるので、最低限そこは必ず行えるようにする。

水を抜いた際は、身体が冷えるため、バスタオルをかぶせ体温の低下をふせぐ。

今回は小浴槽の近くにある呼び出しボタンを押したが、首掛け呼び出しプザーも活用していく。

てんかん発作がある人への小浴槽の水量は注意する(満量ではなくその人の体格に合わせ、首から上がつかからない程度の量)。

ロールプレイでの定期的な技術力向上の場をもうけていく。

重大事故防止のための、適切な支援を図ることが大切とチームでは考えている。今後も、積極的に勉強会を企画し、安全な支援に反映していく。